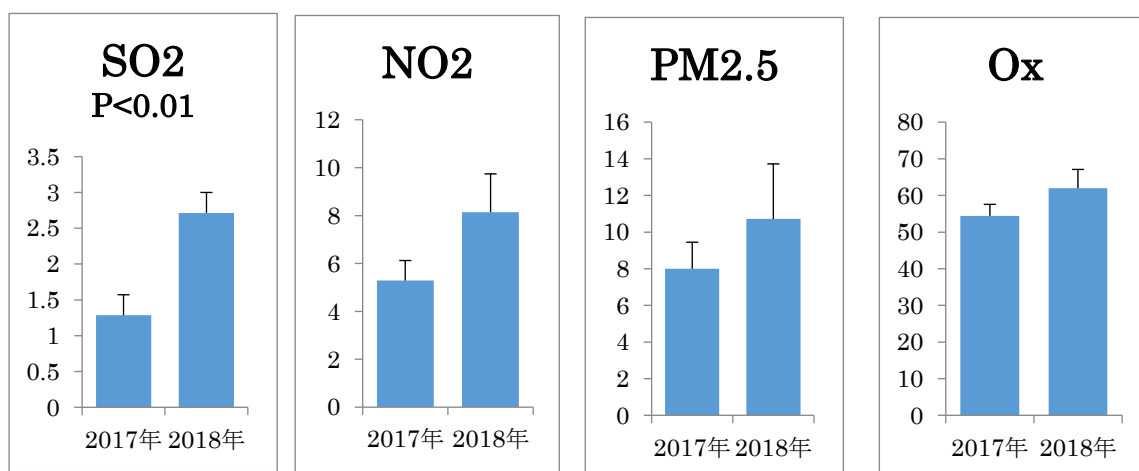


蒲生の実測データについて（乙第 10 号証 13～20 から）

被告が提示した資料の中で稼働前後の大気質を気象条件が類似する同じ月の観測値が得られるのは、乙第 10 号証 15 と 20 で、仙台 PS の近傍の蒲生干潟での 2017 年 5 月と 2018 年 5 月の 7 日間の測定値である。以下、各項目の 1 日平均値をまとめる。

2017年	5/10	5/11	5/12	5/13	5/14	5/15	5/16	(平均)
SO2	1	1	1	1	3	1	1	1.29
NO2	7	7	6	1	7	4	5	5.29
PM2.5	13	11	12	5	6	4	5	8.00
Ox	63	58	66	54	44	47	49	54.4
2018年	5/15	5/16	5/17	5/18	5/19	5/20	5/22	
SO2	3	4	3	2	2	2	3	2.71
NO2	8	15	11	4	6	3	10	8.14
PM2.5	12	21	22	5	3	4	8	10.71
Ox	73	87	60	55	48	53	58	62.0



以上のように、1 週間の平均値はどの項目についても増加がみられ、特に SO2 については統計学的に有意な増加であった。NO2 や PM2.5、Ox は多源性で発生源の特定は難しいが、SO2 は石炭燃焼に特異性があり、このような大気質の悪化が仙台 PS 稼働に起因する可能性がある。また、Ox が環境基準 60ppb を超えていることは憂慮すべき状況である。